

1. (1)  $\forall x \in \mathbb{R}^2 \setminus D^2$  に対し,  $0 < r < |x| - 1$  となる  $r$  を取ると  $x \in U(x; r) \subset \mathbb{R}^2 \setminus D^2$  だから,  $x$  は  $\mathbb{R}^2 \setminus D^2$  の内点. 従って  $\mathbb{R}^2 \setminus D^2$  は  $\mathbb{R}^2$  の開集合だから,  $D^2$  は  $\mathbb{R}^2$  の閉集合.
- (2)  $D^2 \subset U(0; 2)$  だから  $D^2$  は  $\mathbb{R}^2$  の有界集合. (1) と合わせると  $D^2$  は  $\mathbb{R}^2$  の有界閉集合だからコンパクト.
- (3)  $\forall x, y \in D^2$  に対し,  $\gamma: [0, 1] \rightarrow D^2$  を  $\gamma(t) := (1-t)x + ty$  で定義すると  $\gamma$  は連続で,  $\gamma(0) = x, \gamma(1) = y$ . よって  $D^2$  は弧状連結.
- (4)  $\forall x, y \in D^2$  に対し,  $0 < r < |x - y|/2$  となる  $r$  を取る.  $U := U(x; r), V := U(y; r)$  とおくと  $U, V \in \mathcal{O}(D^2), x \in U, y \in V, U \cap V = \emptyset$ . よって  $D^2$  は Hausdorff.

2. (1)  $\mathcal{O}(X) = \{\emptyset, \{a, b\}, \{c\}, X\}$ .
- (2)  $X = \{a, b\} \cup \{c\}$  であり,  $\{a, b\}, \{c\} \in \mathcal{O}(X) \setminus \{\emptyset\}$ , また  $\{a, b\} \cap \{c\} = \emptyset$  だから  $X$  は連結でない.
- (3) (1) より,  $a \in O$  かつ  $b \notin O$  をみたす  $O \in \mathcal{O}(X)$  は存在しないから,  $X$  は  $T_1$  でない.

3. (1) 図 1 参照のこと.  $C$  は  $(1/\sqrt{2}, \pm 1/\sqrt{2})$  を含まない.
- (2) 任意の  $p = (\cos \alpha, \sin \alpha), q = (\cos \beta, \sin \beta) \in O$  に対し,  $\gamma: [0, 1] \rightarrow O$  を

$$\gamma(t) := (\cos((1-t)\alpha + t\beta), \sin((1-t)\alpha + t\beta))$$

とおけば  $\gamma$  は連続で,  $\gamma(0) = p, \gamma(1) = q$ . よって  $O$  は弧状連結.

$C$  についても全く同様: 上のような  $p, q$  (ただし  $\pi/4 < \alpha, \beta < 7\pi/4$  とする) に対し, 上と同じ式で連続写像  $\gamma: [0, 1] \rightarrow C$  を定義でき,  $\gamma(0) = p, \gamma(1) = q$ . よって  $C$  は弧状連結.

- (3) 同相写像  $f: O \rightarrow C$  が存在したと仮定する.  $r := (1, 0) \in O$  とすると,  $f|_{O \setminus \{r\}}: O \setminus \{r\} \rightarrow C \setminus \{f(r)\}$  も同相である.

$O \setminus \{r\}$  は弧状連結である. 実際, 任意の  $p = (\cos \alpha, \sin \alpha), q = (\cos \beta, \sin \beta) \in O \setminus \{r\}$  (ただし  $0 < \alpha \leq \beta < 2\pi$  とする) に対し, (2) の  $\gamma$  は  $O \setminus \{r\}$  内で二点  $p, q$  を結ぶ連続な曲線である.

一方,  $f(r) = (\cos \theta_0, \sin \theta_0)$  ( $\pi/4 < \theta_0 < 7\pi/4$ ) とすると,  $C \setminus \{f(r)\}$  は二つの弧状連結成分

$$C_1 = \{(\cos \theta, \sin \theta) \mid \pi/4 < \theta < \theta_0\}, \quad C_2 = \{(\cos \theta, \sin \theta) \mid \theta_0 < \theta < 7\pi/4\}$$

を持つ.

これは矛盾である. よって同相写像  $f: O \rightarrow C$  は存在しない.

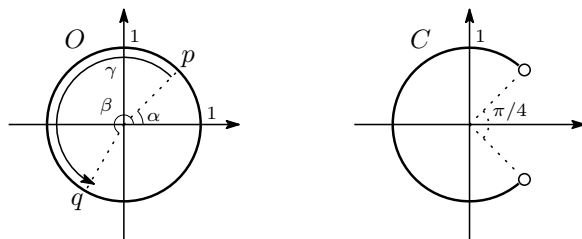


図 1: 問題 3 の  $O, C$

4. (1)  $D^n$  は  $\mathbb{R}^n$  の有界閉集合だからコンパクト. よって任意の連続写像  $f: D^n \rightarrow \mathbb{R}^n$  に対し,  $f(D^n) \subset \mathbb{R}^n$  もコンパクト, よって  $f(D^n)$  は  $\mathbb{R}^n$  の有界閉集合. 特に  $f$  は全射にならないから, 同相にはなりえない.

(2) もし同相写像  $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^1$  が存在したとすると,  $f|_{\mathbb{R}^n \setminus \{0\}}: \mathbb{R}^n \setminus \{0\} \rightarrow \mathbb{R}^1 \setminus \{f(0)\}$  も同相.

$\mathbb{R}^n \setminus \{0\}$  は弧状連結である. 実際, 任意の  $x, y \in \mathbb{R}^n \setminus \{0\}$  について,  $\gamma(t) := (1-t)x + ty$  が  $\gamma(t) \neq 0$  ( $0 \leq t \leq 1$ ) をみたすなら, この  $\gamma$  が  $\mathbb{R}^n \setminus \{0\}$  内で  $x$  と  $y$  を結ぶ連続な曲線を与える. もし  $\gamma(t) = 0$  となる  $0 < t < 1$  が存在するなら,  $n \geq 2$  より  $x, y$  を通る直線上にない点  $z \in \mathbb{R}^n \setminus \{0\}$  が存在するから

$$\tilde{\gamma}(t) := \begin{cases} (1-2t)x + 2tz & 0 \leq t \leq 1/2, \\ (2-2t)z + (2t-1)y & 1/2 \leq t \leq 1 \end{cases}$$

とおけば,  $\tilde{\gamma}$  が  $\mathbb{R}^n \setminus \{0\}$  内で  $x$  と  $y$  を結ぶ連続な曲線である. よって  $\mathbb{R}^n \setminus \{0\}$  は連結でもある.

一方,  $\mathbb{R}^1 \setminus \{f(0)\} = (-\infty, f(0)) \cup (f(0), \infty)$  より  $\mathbb{R}^1 \setminus \{f(0)\}$  は連結でない.

これは矛盾である.

(3)  $\mathbb{R}^n$  は弧状連結である. 実際, 任意の  $x, y \in \mathbb{R}^n$  に対し, (2) の  $\gamma$  がこれらを結ぶ連続な曲線である. よって  $\mathbb{R}^n$  は連結でもある.

一方  $\mathbb{R}_d^n = \{0\} \cup (\mathbb{R}_d^n \setminus \{0\})$  と書け,  $\mathbb{R}_d^n$  の部分空間  $\{0\}$ ,  $\mathbb{R}_d^n \setminus \{0\}$  はともに空でない開集合だから,  $\mathbb{R}_d^n$  は連結ではない.

よって  $\mathbb{R}^n$  と  $\mathbb{R}_d^n$  は同相にはなり得ない.